平成 29 年度第３回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会　議事録

日　　時	平成 30 年３月 22 日（木）　15 時 00 分～16 時 20 分
場　　所	小牧市役所　本庁舎６階　６０１会議室
出 席 者	**【委員】（名簿順・敬称略）** 浅井　真嗣　　小牧市医師会　在宅医療推進委員会委員長 磯村　千鶴子　在宅医療サポートセンター分室 木全　勝彦　　小牧市薬剤師会 芥川　篤史　　医療法人純正会　小牧第一病院副院長 小島　英嗣　　小牧市民病院副院長兼地域連携室室長 渡邊　紘章　　小牧市民病院緩和ケアセンター部長 菅沢　由美子　小牧市民病院地域連携室副主幹 大野　充敏　　小牧市介護支援専門員連絡協議会副会長 伊藤　里美　　小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長 志津　志帆　　小牧市介護保険サービス事業者連絡会訪問看護部会幹事 田中　秀治　　小牧市社会福祉協議会地域福祉課長 三嶋　直美　　南部地域包括支援センター 四宮　貴美子　小牧地域包括支援センター 宮越　晴美　　味岡地域包括支援センター 岡田　江里子　北里地域包括支援センター 山本　格史　　長寿・障がい福祉課長 松永　祥司　　介護保険課長 江口　幸全　　地域包括ケア推進課長 大橋　弘育　　㈲ウィルケア小牧代表取締役 **【代理出席】** 星野　博史　　小牧市歯科医師会 山田　景子　　春日井保健所（小牧分室長） 高田　かおる　篠岡地域包括支援センター **【欠席委員】** 船橋　嘉成　　保健センター所長 **【事務局】** 山田　祥之　　市長公室地域協働担当部長 兼 健康福祉部 地域福祉担当部長 倉知　佐百合　健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長 岩下　貴洋　　健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係 若山　愛美　　健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係
傍 聴 者	０名
配付資料	次第 資料１：進捗状況報告シート 資料２：こまきつながるくん連絡帳の現状について 資料３：小牧市高齢者福祉医療戦略プログラムの進捗状況報告シート 資料４：平成３０年度の在宅医療･介護連携推進事業について 参考資料：在宅医療・介護連携に関するアンケート結果について

主な内容

１．開会

・あいさつ

２．これまでの課題の進捗状況について

・ 資料１：進捗状況報告シートを用いて、各委員より説明。

（ア）地域の医療・介護の資源把握

（１）歯科医の訪問歯科診療の実施状況などについて

歯科医師会：星野氏）

・ 訪問歯科診療の対応表については、平成 29 年 7 月版は完成し、医師会、薬剤師会に配布した。
・ 介護保険サービス事業者連絡会を通してケアマネジャー、介護事業所等にも配布予定である。
・ 平成 30 年 7 月版については、配布対象箇所を増やしていく予定である。
・ 対応表と各医院のホームページ、歯科医師会ホームページの医院情報との不一致については、確認し、順次修正している。
・ 現在、31 箇所の歯科診療所が登録されているが、平成 30 年度に関しては、1 箇所、辞退され、30 診療所となる。
・ ただ、30 箇所の歯科診療所の一覧であるが、実際、訪問診療をしているのは、20 前後の状況である。その辺りについても、確認しながら対応表を作成していく。
・ 衛生士会との連携やフリーの歯科衛生士の発掘、専門的な口腔ケアができ、施設職員や家族に指導できるような人材の養成に取り組みたいと考えている。
・ 人材関連については、衛生士会との話し合い、情報交換を継続している。人材養成は難しいが、研修会の情報を共有し、各々のレベルアップを試みている。
・ 将来的には、歯科衛生士がいない歯科医院の派遣依頼にも対応できるよう、人材バンクのようなものを整備できるとよい。人材バンクは理想であるが、難しい状況である。
・ 新規事業では、サロンへの出前講座としてオーラルフレイルをはじめ、誤嚥性肺炎の予防を目的に、市内の歯科医が地域に出向き、１時間程度の講話をしていきたいと思っている。
・ 介護施設職員への口腔ケア等の研修や、訪問診療ニーズの把握を考えている。

浅井会長）

・ 歯科衛生士について、絶対数が少ないのか。

歯科医師会：星野氏）

・ 以前は、歯科衛生士の職場が少なく、歯科衛生士を養成する学校が減った経緯がある。
・ 最近は、ニーズが増えており、増えていくと思われる。
・ 個人的な意見であるが、潜在的な歯科衛生士はいると思っている。例えば、市広報などで募集をかけていけば、手を挙げていただける方はいるのではないかと思う。

（ア）地域の医療・介護の資源把握

（２）薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況などについて

木全委員）

・ 薬剤師会として、進捗状況としては芳しくなく、前回の協議会と同じ内容となっている。
・ 診療報酬の説明に行ってきたが、徐々に変わってくるかと思っている。
・ 現状、一人、二人の薬剤師が多く、実際にやられている薬局が中心となってやっていただくしかないかと思っている。
・ 「こまきつながるくん連絡帳」の登録については、12機関となっているが、ある薬剤師からは、大変であるといった意見も出ている状況である。

浅井会長）
・　具体的に何が大変であったのか。
木全委員）
・　確認など、読み込むのが大変といった声を聞いている。
浅井会長）
・　実際、小牧市内の薬局は、市内10箇所以上は訪問調剤をやってくれている。その後、市民病院の方で、やり始めたと言っていたがどうか。
菅沢委員）
・　市民病院内にきちんとした窓口は出来ていないが、地域連携室において、自分が担当している。
・　私が把握している限りでは、３箇所の薬局と対応しているところである。
・　また、薬剤師会やケアマネジャーからの依頼など、約束ごとを決めてやり始めたところであり、課題はあると思うが、実際は動いている状況であると考える。
浅井会長）
・　課題というと、具体的にどういったことがあるか。
菅沢委員）
・　市民病院だと、さまざまな科にかかっている場合、どの医師が薬剤指導の指示をするのか。また、かかりつけ医を持っており、市民病院にもかかっている場合、どちらの医師が指示を書くのかなど、ケアマネジャーに確認することがあり、この辺りが明確ではないと感じている。
浅井先生）
・　薬剤師会の中で、市民病院などに対して、訪問に関してのアプローチをしていたと思ったが、その後はどうか。
木全委員）
・　委員会については、継続している。昨年12月が最後で止まっている状況である。
・　12月の委員会の報告では、市民病院と協議をしていると聞いている。

（ア）地域の医療・介護の資源把握
（３）各介護保険サービス事業所についての情報共有について
伊藤委員）
・　前回の協議会において、配布させていただいたが、事業所一覧のダイジェスト版を作成し、配布しているところである。
・　今年度は冊数に限りがあったため、次年度以降については、増刷をし、医療機関や他の機関に設置できるようにしていきたいと考えている。

（カ）医療・介護関係者の研修
（４）研修について
磯村委員）
・　「医師とあゆむ勉強会」は、１２月、２月に予定通り開催した。平成 30 年５月については、今の形式で開催予定であるが、その後については、市と調整中である。
・　在宅医療に関するアンケート調査（公表可）については、医療・介護の関係機関に情報提供を行った。
・　医師会にて作成した「副科紹介ツール」は継続して使用する。
・　訪問看護ステーション概要一覧については、小牧市医師会 A 会員に郵送し、情報提供を行った。連携が強化され、医師の負担軽減になると良いと考える。
・　勉強会から立ち上がった「小牧摂食嚥下サポートチーム」～小牧ごっくんサポート～は、「こまきつながるくん連絡帳」を情報共有ツールとして活用しながら活動していく予定で、

サポートセンターが開催通知等の窓口になる。
・「小牧市医師会在宅医療サポートセンター分室」は、平成30年４月から「小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター」に名称が変更になり、事業を行うことになる。これまでの医療に加え、介護に関する連携強化も推進することになることから、関係機関の協力が必要であると考える。

浅井会長）
・ただいまの報告に加えて、今年度までやっていなかった、在宅診療について医師の同行訪問という形の研修について、どれだけニーズがあるか不明であるが、計画を立てて実施していきたいと考えている。

田中委員）
・訪問診療の同行訪問について、詳しくお願いできないか。

浅井会長）
・基本的には、在宅診療の中の訪問診療について、お互い同行して見せ合うなど、こんな風にやっているというようなことをやっていく必要があると考えている。
・基本は、開業医レベルになるかと思っているが、やり方としては、在宅診療をやっているところに、他のドクターがついて回る形になると思っている。
・具体的に、どういった形で進めていくかは決めていないが、小牧市においては未着手であり、実施したいと思っている。
・個人的には、名古屋などに出向き、５年のうちに２回くらいはやっている。
・在宅医学会の専門医を更新するためには、５年のうち２回は、指導医療機関で丸１日、同行することになっている。
・確かに市内では全くないので、進めていきたいと思っている。

小島委員）
・実際、浅井会長が中心となって訪問診療をしている状況であると思う。
・どの程度の診療医が賛同し、参加していただけるかなどあるのか。

浅井会長）
・以前のアンケート結果では、年に１回でも訪問診療をやっていると回答した診療所は、20半ばという状況である。これは、往診とは違う。
・ただ、やっているだけで、それだけで終わってしまっているため、もう少しスキルを磨きたいとか、今までは診ることができなかったが、もう少しステップアップし、がん末期を診たいなどのニーズが出てくれば対応していきたいと考えている。
・現実、同行させることができるのは、当院くらいかと思っている。
・せめて、自身の診療所で診てきた方については、そのまま診ていただけるとよいかと思っており、この部分については、医師会でも強調していきたい。
・歯科の方では、同行訪問などはどうか。意味はないか。

歯科医師会：星野氏）
・意味がないとは思わない。先日、西田先生に同行し、口腔ケアのやり方を見させていただいたところであり、そういう意思のある方にとっては、非常に良いことだと思う。

志津委員）
・看護部会としては、１月25日に「それぞれの生き方、逝き方　～本人の意志に寄り添う支援のあり方を考える～」の題名のもと、研修が開催された。普段は、訪問看護師の参加が少ない状況であったが、今回は各事業所に呼びかけ、14名が参加した。
・グループに分かれ意見交換を行ったが、今回は12のグループでグループワークが出来たため、より意見交換をしやすい場となったと考える。
・課題としては、皆さんの意見を集約し、話し合うだけでなく、訪問看護間のレベルアップが

必要であると感じたため、自分たちの勉強会を行うなどし、皆さんに情報発信できればと思っている。

- ２月 14 日にラピオにおいて、「在宅医療推進には訪問看護が欠かせない」をテーマに勉強会を開催した。今回も認定看護師が講師役となり、スライドを用いて説明を行った。
- 課題としては、訪問看護は、医療保険と介護保険の二通りでの訪問があるため複雑であり、医療と介護保険でできることが異なるのではないかとか、時間などについて質問があった。アンケート等の質問からも、もう少し分かりやすく、説明ができればと思っている。

大野委員）

- 11 月 30 日に、「薬剤師とケアマネの座談会」を開催した。薬剤師との座談会については、今回が初めてであり、お互いのことを理解できたことで、今後のチームケアでの広がりを期待したい。
- ２月 14 日に、ケアマネのためのリハビリテーションの実践知識を開催した。今回は、呼吸器、口腔、嚥下などのリハビリについてご講義をいただいた。
- 訪問看護とケアマネ、地域包括支援センターのお互いの勉強会という点からいうと、今年度、個々の座談会が複数回実施したこともあり、役割上、ケアマネが参加する対象になっていることから、一部の委員からは、研修会が多いといった意見が出ている。
- 来年度に向けて訪問看護については、看護としてやるかやらないというところがあるが、多職種の参加による研修会を考えていき、ケアマネの研修回数を減らすなど検討が必要であると考えている。

田中委員）

- ２月 16 日に四者連絡会と話が先ほど出たが、地域包括支援センター、事業者連絡会、ケアマネ連協、市の四者に、今回は、在宅医療サポートセンターにも加わっていただき、ケアマネジャーの研修についてバランスを取っていることを目的とした会議を開催した。
- ケアマネジャーの研修が多いとのことから、疲弊しているとの声があがっているため、そこを整理していこうといった趣旨で話し合いをしたところである。
- 主要研修を月１回程度とし、その他の研修については各自が取捨選択するような形を取り、年度初めにそうした案内をしていければと思っている。
- スケジュール表については、ケアマネ連協ホームページで掲載しているところであるが、閲覧件数が増えている。多い時には月に 250 件ほど閲覧されており、何かしらの形で見ていただけていると思っている。

大橋委員）

- 研修が多くて疲弊しているとの声が聞こえてきたとのことであるが、研修は別として、それでもケアマネジャーは仕事量が多いと思うが、個人的な意見でも良いので、改善すべき点などがあればお聞きしたい。

田中委員）

- 声としてあがっているのは、「連携」「医療」というキーワードが出てくると参加しなければならないとの考えになると聞く。しかし、そうした知識の習得は必要だとも思うため、時期的なものなどを含めて、同じような研修を無くしていく形で整理が出来ればと思っている。
- 今年度については、座談会と称し、「医師」、「訪問看護」、「薬剤師」の３回実施した。こうした同じようなものを合わせていけると良いかと思っている。

浅井会長）

- 次年度以降については、サポートセンターの名称が、「在宅医療・介護連携サポートセンター」に変更となるため、センターにおいて、集約して一括で管理する形が一番良いと思っている。
- 皆さん、どうでしょうか。

～他委員からの発言なし～

（キ）地域住民への普及啓発

（５）わた史ノートの普及・啓発について

江口委員）

・ わた史ノートの普及・啓発について、２月９日に寿学園において、渡邊委員と菅沢委員に、わた史ノートについての講演をしていただいた。
・ また、次年度以降、市の出前講座で普及啓発を図るため、２月 13 日に、地域包括支援センターご出席のもと、渡邊委員と菅沢委員に講師を務めていただき、講義を行っていただいた。
・ 平成 30 年度末に教科書の改訂が予定されており、中学社会科副読本「小牧」にわた史ノートの啓発ページを盛り込んでいただけないか依頼をしているところである。
・ アンケートをとっても、知っているという方の割合が低い状況であるため、計画的に普及啓発を行っていきたい。

浅井会長）

・ お孫さんから仕掛けていくというのは良い方法だと思う。

（ウ）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

（６）療法士の取り組みについて

大橋委員）

・ 平成 30 年４月 21 日に小牧市リハビリテーション連絡会総会を開催予定であり、その時に、勉強会として、歯科医師会の西田先生に講師をお願いしている。
・ 会員数が伸び悩んでいるため、クリニックで働いているセラピストに働きかけをしていきたいと思っている。
・ 膝腰スッキリ体操については、計 16 回で、今年度はすべて終了した。現在療法士会の中の５名で対応しているが、もう少しできる会員を増やす必要があると考える。
・ 出前講座として、介護教室を年に数回であるが、実施していたところである。出前講座には、企業編と行政編に分かれており、これまでは前者であったが、次年度以降については、後者として行っていく。こちらについても、できる人材が全会員の１、２名と少なく、できる会員を増やす必要があると考えている。
・ 美姿勢エクササイズを年に数回やっているが、主に幼稚園、保育園の母代を対象に実施してきたが、こちらもできる人材を増やすとともに、母代だけでなく、お子さんも一緒にできるようにするため、改名し実施していく。
・ サロンの立ち上げ支援については、２、３箇所のサロンに行かせていただいた。行ってみると、それぞれ違っており、それに合わせていくことが今後の課題であると考える。
・ 「こまき山体操」を作成中であるとお伝えしてきたところであるが、完成版ではないが、マニュアルが出来たところであり、更に煮詰めていきたいと思っている。
・ また同時に、色々な体操をされている方が多いと実感しており、この「こまき山体操」をどのように普及啓発するかイメージが沸いていない状況であり、課題であると思っている。
・ 経理的な部分で、次年度以降、愛知県士会のほうから事務局経費を助成いただけることになった。

（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

（７）病院とケアマネジャーの連携について

田中委員）

・ 病院との連携が、加算項目に入ってきており、この辺りを強化、啓発していくことが重要であると考える。

・ 特に ICT や連携シートの活用について、更に周知を図りたい。

菅沢委員）

・ 継続して連携シートの活用を推進している。報告シートに記載のとおり、充分活用されている状況であると思われる。
・ 今後、進めていくのであれば、市民病院だけでなく、小牧第一病院も含めて活用していく必要があると考える。
・ 平成30年４月から診療報酬が改定されるにあたり、更に入院時から情報提供を強化していかなければならない中で、連携シートをどのように早期で活用していくのかについて、市民病院で検討中であり、第一病院とともに考えていきたい。

芥川委員）

・ 具体的には、まだ分からないが、後方支援病院として力を発揮できるようにしていきたい。

浅井会長）

・ 第一病院として、退院調整会議はやられているか。

芥川委員）

・ 退院カンファレンスは実施している。

浅井会長）

・ 次回の協議会において、第一病院の実際の状況を教えて頂きたい。
・ 市民病院では、退院カンファレンスに医師会員が出てくることはどの程度あるか。

菅沢委員）

・ 介護連携指導料や退院時共同加算などで、積極的に声かけをしているが、年間を通すと月に１、２件程度だと思う。
・ 医師は多忙であると思われるし、診療報酬の改定に伴い、看護師でも対応可能となるため、働きかけをしていきたい。

浅井会長）

・ ４月から診療報酬が上がっている。
・ 多忙といってしまえば、それまでであるが、我々の方も何とかしなければならないと思っている。
・ 時間帯を決めるとよいのか、どうすればいいのか悩ましいところである。

（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

（８）ＩＣＴの構築について

江口委員）

・ ICT の現状について、資料２：こまきつながるくん連絡帳の現状についてを用いて説明。
・ 全ての施設とはいかないが、できる限り職員が出張し、登録の手続きのお手伝いをしている状況である。
・ 実際、ケアマネジャーや地域包括支援センターご協力のもと、９名の患者さんの情報が共有されている。

浅井会長）

・ 実際やってみて、課題や問題点などについて、ご意見をいただきたいと思う。

大野委員）

・ 思ったほど件数が増えていないのはなぜかと思い、ケアマネジャーにご相談してみた。
・ やっていない方が言われるのは、医師との関係がないから、使っていないと言われる方が多い。ただ、この「つながるくん」は、医療との連携がないからといって、使えないものではないと思うが、それを理由にしているのかなと思われる。
・ 具体的に、ケアマネジャーに使ってもらうためには、後ろから後押しをして、一緒にやろう

よと声をかけていくことが必要ではないかと思っている。
・ また、サービス事業者連絡会の居宅部会の総会において、ICTをなぜ使えないかといったことを議題にあげながら、一人でも多く使っていただけるようにしていきたい。

三嶋委員）

・ 現在、チーム員は４名しかいない状況である。
・ この方は、３つの医療機関を使っている状況であり、また、訪問薬局、デイサービス、訪問介護、福祉用具など多くのサービスを使っており、医療依存が高いため、医療機関の方に入ってもらえると良いと思い、始めた。
・ しかし、医療機関の登録が無い状況であり、また、先生に対する声かけが出来ていない状況もあり、チーム員が増えていない。

浅井会長）

・ 医師会としても、全ての医師会員に対し、地域包括支援センター、ケアマネジャーから「つながるくん」への協力について、要請があれば、受けるように通達したところである。
・ これは、断られたということか。

三嶋委員）

・ 医師の方に、まだ依頼をできていない状況である。
・ デイサービスについては、市内の事業所であり、市が登録支援をすることを伝えても、なかなか登録につながっていない状況である。
・ 先日、その方が転倒をされ、どういった状況かといった電話がかかってきた。本当であれば、こういったことも「つながるくん」で情報共有できるとよいと感じている。

浅井会長）

・ 私は、３、４例をやっているが、慣れてしまえば、便利である。
・ 初めは敷居が高いが、慣れてしまえば楽だと思う。

四宮委員）

・ 医師の先生に相談をしたが、時期的にインフルエンザが流行していた時期であり、多忙とのことであり、訪問看護を通して、必要がある時は、医師に意見を記載していくことで了承をいただいた。
・ 市の方から、訪問看護、訪問介護、通所介護について、すぐに登録支援をしていただき、「つながるくん」を利用できる状況にはなっているが、実際のところは書き込みがなく、電話で書き込みなどをお願いしているが、なかなかつながらない状況である。
・ ケース自体が要支援１の方ということで、それぞれが関係する機会が少ないということもあり、情報共有をしなければならないところに至っていないというところもある。

宮越委員）

・ 実際、サービスは使っていない方ではあるが、何かあったときにすぐに動けるようにするため、情報共有を「つながるくん」を活用する中で実施している状況である。
・ 診療所については、市外の診療所である。説明をした際に、そういうことが必要であればということで快く了承していただけた。
・ それほど多く情報共有をしているわけではないが、往診の様子など、いざという時に向けての動きはそれなりに取れていると思っている。
・ ここには載っていないが、ケアマネジャーの同意は得られたが、招集をかけることが出来ていないケースがあり、事業所としては、動かすのは難しいと感じているのかと思う。

田中委員）

・ 私の方でも、使っている事業所、使っていない事業所にヒアリングを行った。
・ 使っていない理由として、業務に余裕がないという意見が真っ先にあがってくる状況である。

・　その中での課題として、同意書を得る必要があり、本人や家族が見ることができない環境の中で、個人情報を取り扱われることに抵抗があり、同意書の投げかけをしにくいとのことである。

浅井会長）

・　同意書を求めて、拒否された事例もあるのか。

田中委員）

・　あるようである。拒否されたという話も何件か聞いた。
・　先ほども少し出たが、登録者が少ないため、医師やサービス事業所に登録を依頼しなければならないということで、依頼をしたときに断られたり、使い方を教えないといけないなど、事業所の理解がさまざまだという点で躊躇してしまうということがあった。
・　システムの問題で、システムの使い方が分からなかったり、日常使うPCがネット環境に無いなど、使い勝手が悪いという状況があるようである。
・　個人情報の取り扱いについて、同意書はとって実施するものの、責任の所在が、自分に関わってくるのではないかと抵抗感がある。
・　逆に、使っている方にとっては、とにかく便利だという声があった。
・　情報がケアマネジャーに集まってくるし、情報管理がしやすく、使えば利点があるとの声を聞くことが出来た。
・　医療従事者とのつながりで得られるものがあること、他の方との話のなかで、得るものがあったり、色々な動きを知ることができるため、状況把握には非常に有効だという意見があった。
・　また、ケースを選んでいるようであり、医療サービスを使っている方のなかでも、同意が得やすい方や、この医療機関であれば賛同を得やすいなど、ケアマネジャーの段階で選択をしていることが分かった。
・　進める方法として、同意書について、契約を交わす段階で取っていくこと、介護だけでも連携すべきケースは活用していくこと、会としての連絡や通知など、情報共有のためのツールとして活用していけると良いとの意見が出ていた。

江口委員）

・　基盤整備はしたところであるが、付加価値については、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っている。
・　「つながるくん」については、専門職向けの部分と、市民向け部分がある。
・　この市民向けのページの中で、こうした動きをしているなどの情報発信をするなど、充実化していきたいと考えている。

３．　高齢者福祉医療戦略プログラムの進捗状況について

・　資料３：高齢者福祉医療戦略プログラム進捗状況シートを用いて、事務局より説明。

４．　平成３０年度の在宅医療・介護連携推進事業について

・　資料４：平成 30 年度の在宅医療・介護連携推進事業に基づき、事務局より説明。

５．　その他

・　在宅医療・介護連携に関するアンケート調査報告書に基づき、事務局より説明。

【閉会】